春の楽寿園にお出かけください

問楽寿園（☎975－2570）

楽寿園市民招待券の発行回数が変わります

楽寿園の料金改定に伴い、広報みしまで発行している市民招待券が年間４回、計16枚の発行から年間１回計４枚の発行になりました。（広報みしま４月１日号で４枚発行）

春の小品盆栽展

とき　４月10日㈮～12日㈰午前９時～午後４時
ところ　園内展示場
内容　盆栽ファン必見の小品創作銘品の展示・即売

春のふれあい動物広場

とき　４月12日㈰午前10時～午後３時30分
ところ　園内どうぶつふれあい広場
内容　９月に生まれたアルパカの「キララ」がふれあい広場に初登場します。通常よりも近くでふれあうことができます。またそのほかのイベントも開催予定です。

おいし～♪ 楽し～♪ スパイシ～♪ 三島でインディア2015

楽寿園がスパイシーな香りで満たされる、美味しく楽しいイベントが開催されます。本場インドのカレーからご当地カレーまで、多彩なカレーが集まります。また一般募集したおもしろカレー、動物カレーのコンテストも行います。

とき　４月19日㈰午前10時～午後４時
ところ　楽寿園
内容　▶三島界隈の特徴あるカレー（全８店）の販売（なくなり次第終了）▶「うちっち」カレーコンテスト決勝戦（一般募集したオリジナルカレーレシピの中から３つのレシピを、当日限定200食販売し、来場者の投票によりチャンピオンを決定）▶ヘナや雑貨など、インドを体感するブース
費用　当日は食券制。１枚400円で園内にて販売。
※楽寿園入園料は別途必要
※詳細は楽寿園のホームページをご覧ください。

えびね展

とき　４月23日㈭～26日㈰午前９時～午後４時30分
ところ　園内展示場
内容　えびね蘭と山野草の展示、栽培相談・即売

楽寿園の市民招待券をご利用ください

▼平成27年４月１日から三島市民の皆さんが利用できます。切り離してお使いください。

楽寿園三島市民招待券
1人1枚

平成28年３月31日まで有効

楽寿園三島市民招待券
1人1枚

平成28年３月31日まで有効

楽寿園三島市民招待券
1人1枚

平成28年３月31日まで有効

楽寿園三島市民招待券
1人1枚

平成28年３月31日まで有効

※楽寿園の料金改定に伴い、市民招待券の発行は広報みしま４月１日号のみ（年間１回）となりました。

歴史の小箱

No.323

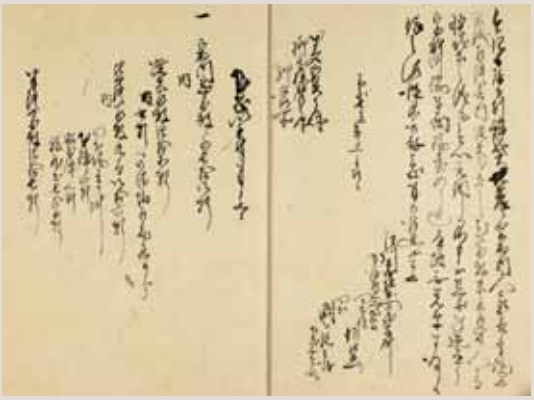
安政東海地震
三島宿の被害状況

今回は、三島宿を襲った江戸時代の地震についてご紹介します。

嘉永七年十一月四日（太陽暦では一八五四年十二月二十三日）午前九時頃遠州灘でマグニチュード八・四と推定される大規模な地震（安政東海地震）が発生します。この地震により、関東から近畿、特に沼津から伊勢湾にかけての沿岸が被害に遭い、津波が房総半島南岸から四国南岸までを襲いました。そして、三十二時間後の翌五日午後四時頃、南海道沖でマグニチュード八・四の大地震（安政南海地震）が発生し、被害は中部から九州まで及びました。立て続けに起った二つの地震・津波による被害は家屋の倒壊や焼失が約三万軒、死者は二千人から三千人に達したと考えられています。

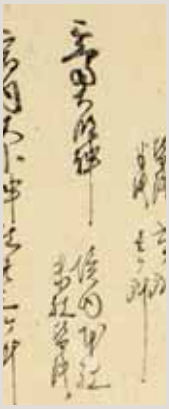
三島宿は、安政東海地震による強い震動と火災のため、ほとんどの建物が被災し、宿場全体が壊滅的な被害にあっています。宿内の被害状況は、問屋世古六太夫から幕府の道中奉行へ提出した「地震ニ付道中御奉行所江御注進之写」（写真①）から分かります。宿内総家数一〇七八軒に対し、潰れた家は九八六軒で家屋の九一パーセントが全壊しています。

伊勢参りに行く途中で被災した下総国の国学者の体験記「地震道中記」によると、三嶋大社前の丸屋甚兵衛の孫娘の救済劇や、宿内の被災状況が描かれ、大きな被害を受けながらも宿内での死者は一人もなかったことが分かります。



◀写真①
「地震ニ付道中御奉行所江御注進之写」

この地震により、三嶋大社の境内、末社なども潰れています。（写真②）



◀写真②
「地震ニ付道中御奉行所江御注進之写」
三島明神の被害状況記載部分

地震から三年後の安政四年、この惨状を目にした日米修好通商条約締結のため日本を訪れていた初代駐日領事タウンゼント・ハリスは、大社に参詣し金二両二分の寄付をしています。（『日本滞在記』）

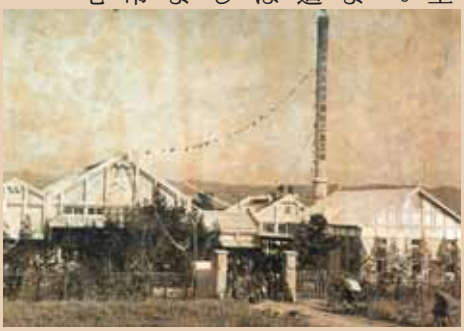
地震発生の翌月、問屋世古六太夫、朝日猪兵衛らが担当役人へ提出した「御尋ニ付申上候書付」によると、宿泊は、家が潰れているが裏屋などを使用するなら一応は可能となっており、継立（宿駅で人馬を替え、貨客を送り継ぐこと）は発災から十四日後の十八日からはすべてが滞りなく行われ、宿場機能の復旧は思いのほか早かったようです。

ふるさとの人物ゆかりの地⑬
花島兵右衛門

花島兵右衛門は三島宿竹林寺小路（現在の三島市中央町）出身の実業家で、初期の国産練乳の中で代表的ブランドとなった「金鶏ミルク」を開発、販売したことで知られています。

まだ日本で牛乳が珍しかった明治一八年（一八八五）、彼は豊牧舎という牧場を開きますが、余った牛乳の活用法として練乳製造を試みました。試行錯誤の末、完成した練乳は上質な外国製練乳に引けをとらない出来栄えで人気となり、全国で販売されたほか軍隊へも納入されました。

金鶏ミルクを製造していた花島練乳場は才塚（現在の南二日町）にあり、合併による社名変更を経た後、森永煉乳に吸収され、戦後は森永乳業の工場になりました。昭和四十年代まで乳製品の製造を続け、その後は三島事業所として存続していましたが現在は市営南二日町住宅になっています。



▲工場外観（昭和二年）

問 郷土資料館（☎971－8228）